

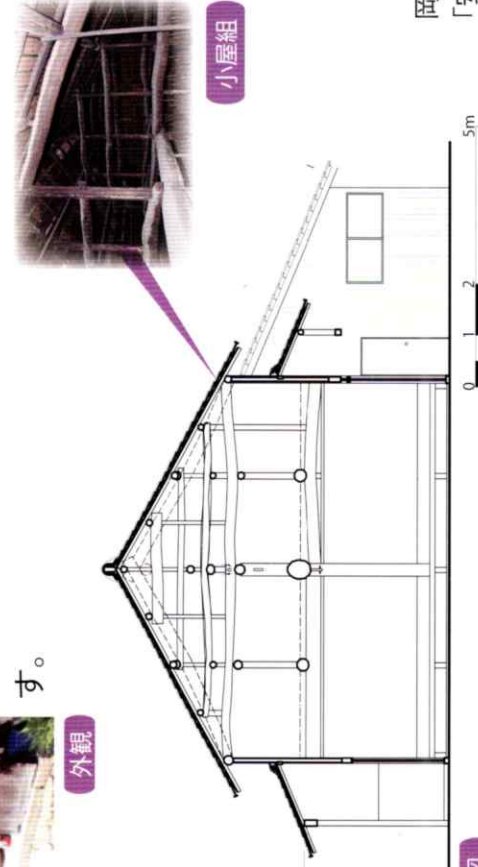
平成23年度は、南明治区画整理事業で取り壊されることになった末広町の岡山家、村岡家(旧原田家持家)の緊急調査を行いました。

岡山家住宅

構造様式：平屋建、平入、切妻造、棧瓦葺
桁行9間、梁間5間

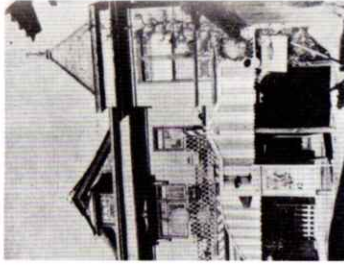


外観



内観

立面図



小屋組

昭和25年頃の安城座
岡山家は、隣接する芝居小屋「安城座」のオーナーでした。

旧原田家住宅

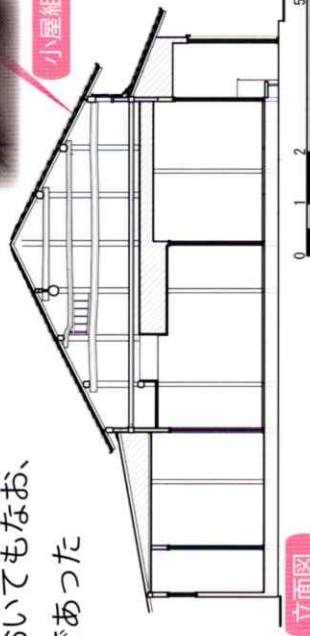
構造様式：平屋建、切妻造、平入、棧瓦葺
桁行7間半、梁間4間強



外観



内観



立面図

原田家は、6代目彦蔵氏が、矢作村小望（現岡崎市昭和町）で綿布商を営んでいました。明治末頃、家族は現在の地へ引っ越し、安城座の前で煙草雑貨店を営んでいました。この建物は煙草屋の近くに、大正8年（1919）彦蔵の子により建てられたもので、古い部材と新しい部材が混在することから移築転用による建物であることが分かりました。南北の屋根の形状や小屋組の違いから1棟の建物ではなく複数の建物を組み合わせた可能性が高いと考えられます。建造当初は1棟1軒の借家として1家族が生活していましたが、昭和38年（1963）、4軒長屋状の借家に改造されました。

機械製材が普及した大正時代においてもなお、新築よりも移築が経済的に有利であったということを示す資料です。



小屋組

安城市歴史的建造物NEWS Vol. 5

掲載されている建造物は、個人や私的団体の所有物です。
見学の際は、所有者の承諾を得たり、ゴミは持ち帰るなど
マナーを守るようお願いいたします。

編集・発行 安城市教育委員会 生涯学習部文化振興課文化財係
〒446-0026 安城市安城町城堀30番地

法行寺

寂静寺

安正寺

憶念寺

西蓮寺

本龍寺

城泉寺

篠目八幡宮

岡山家住宅

旧原田家住宅

法行寺本堂（東町）・寂靜寺本堂（岡崎市上地町）

安城市では、近世・近代を中心とする寺院建造物について、現状を把握し、今後の保存・活用方法を探るための調査を行っています。平成23年度は、19か寺の調査を行いました。



写真1 法行寺本堂



写真2 寂靜寺本堂

安城市東町にある法行寺（真宗大谷派）の本堂は、岡崎市上地町にある寂靜寺（浄土真宗本願寺派）の本堂と深い繋がりがありません。法行寺では、現在の本堂を建立した際、それまでの本堂を寂靜寺に移築したという言い伝えがあり、寂靜寺には、法行寺から本堂を買い受けて建てたという石碑が残っています。その確認のため、法行寺と寂靜寺の調査を行いました。



写真3 法行寺本堂棟札（左）
寂靜寺本堂棟札（右）

現在の法行寺本堂は、棟札により、文化8年（1811）に上棟されたことがわかっています。大工棟梁は、宮大工として有名な牛久保（現豊川市）の岡田五左衛門（8代目之昌）です。

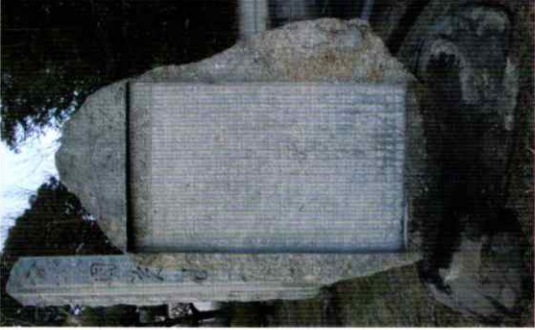


写真4 寂靜寺の石碑

寂靜寺境内には、由来を記した石碑（写真4）が昭和53年（1978）に建てられており、「（前略）文化五年十二月桜井村ノ法行寺ノ本堂ヲ金二十七両ニテ買ヒ受ケ此ノ地に建立トノコト是ガ今ノ本堂カト思ハレル（後略）」と記されています。残念ながらこの言い伝えを裏付ける記録類は残っていないため確証はありませんが、寂靜寺に残る棟札には文化6年（1809）に御堂再建とあることから、法行寺本堂の棟札との年代の矛盾はありません。

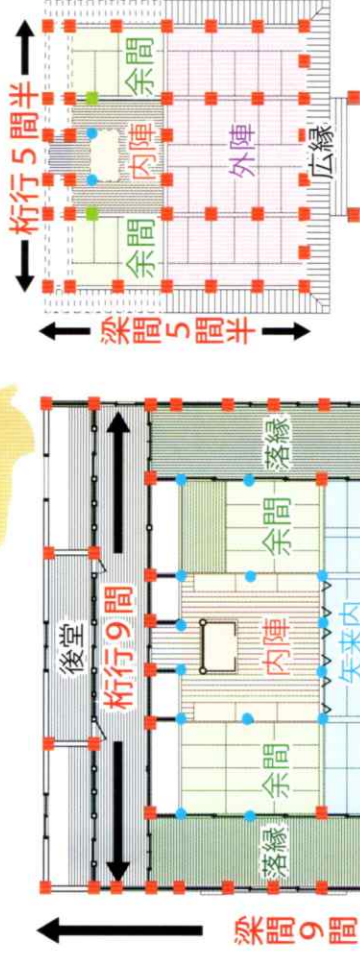


写真5 軒裏の構造（寂靜寺本堂）



柱や梁からでている上部を支える横木のことをいいます。

寺本堂（岡崎市上地町）



▲ 図1 法行寺本堂平面図（左）と寂靜寺本堂平面図（右）（同縮尺）
法行寺本堂がいかに大型化しているかがわかります。

point? 役割？
・内陣は本尊を安置する空間
・余間と矢来内は儀式の際に僧侶が待機する空間
・外陣は門徒が礼拝する空間
■ 角柱 ■ 丸柱
■ 角材に丸い材を巻き付けて丸柱にしたもの

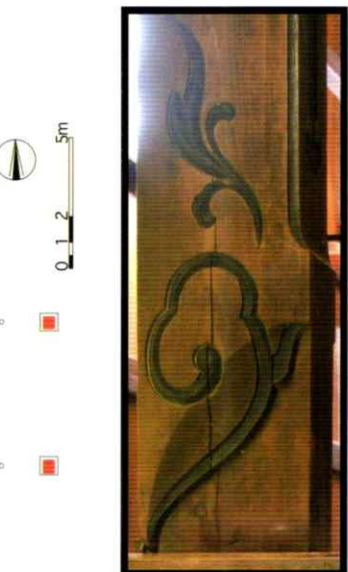


写真6 寂靜寺本堂虹梁絵様



写真7 法行寺本堂虹梁絵様

▲ 寂靜寺の本堂虹梁の絵様は、法行寺本堂の文化年間（1804～1818）の絵様に比べると、非常に簡素な文様であることがわかります。これは、古い時代の絵様の特徴を表しており、18世紀前半のものであると考えられます。

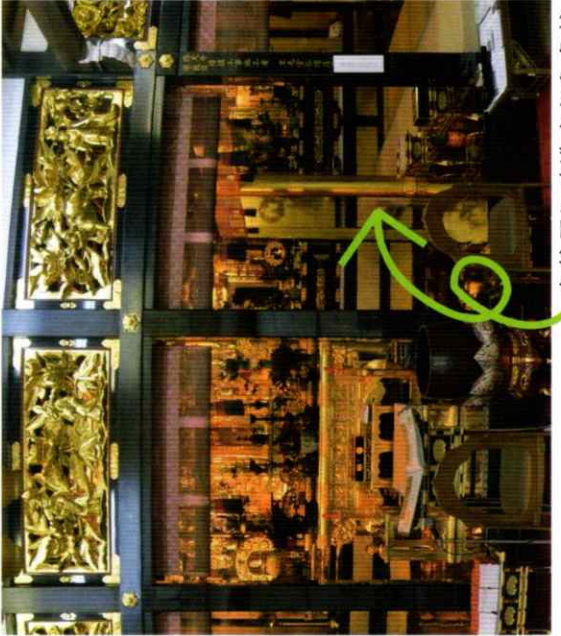


写真8 寂靜寺本堂内陣の柱

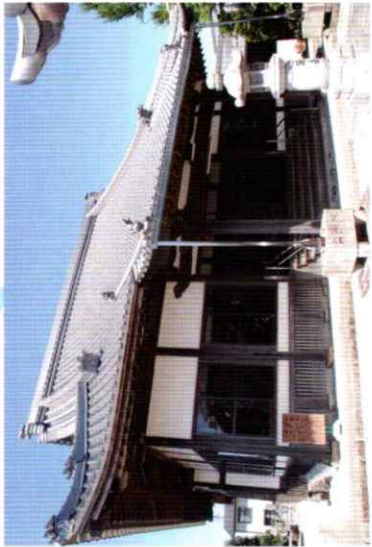
古い真宗本堂では、柱の大半は角材です。寂靜寺本堂では写真奥に1本金箔が押された丸材が見えますが、これは角材に丸い材を被せて丸柱に見えるように改造されています。19世紀初頭の柱は丸柱が一般的であったため、それに近づけようとしたのでしょうか。

今回の調査では、棟札からわかる両寺本堂の建立年代、寂靜寺本堂の部材の随所に見られる改造や増築の痕跡から、伝承通り寂靜寺本堂は、法行寺本堂を移築した建物である可能性が非常に高いと思われます。寂靜寺は創建から30年余りでこの本堂を移築していることからすると、創建当初は簡素な建物であったと考えられます。また、買い受けた約100年前の本堂をそのまま移築するのではなく、屋根を茅葺きから桧瓦葺きにしたり、角柱を丸柱に見えるように改造するなど、19世紀初頭の一般的な本堂の形に少しでも近づけようとしていることが窺えます。法行寺本堂と寂靜寺本堂は、それぞれの時代の典型的な本堂であり、さらに一寺院の本堂が、場所は違っても残されている極めて貴重な建造物です。

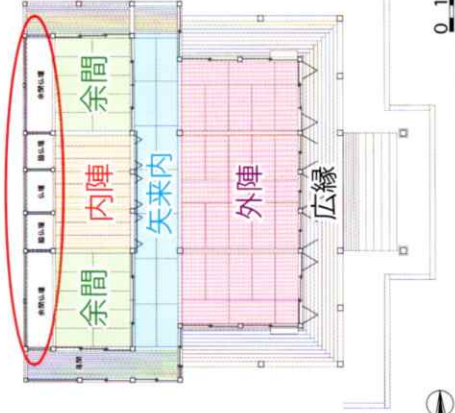
安正寺（藤井町）

構造様式：入母屋造、棧瓦葺、平入

安正寺は山号を藤井山といい、真宗大谷派の寺院です。寺伝によると、松下円平綱親が野寺本證寺の空誓に従い僧となり、慶長年間（1596～1615）に、藤井山長円寺に入山し開基となりました。その後、天和3年（1683）寺号を安正寺と改称し、貞享元年（1684）本山より木像本尊を下付され、安永8年（1779）に本堂が建立されました。この本堂は改修・改造が多くみられ、当初は、内陣の背面に一直線に仏壇が並び古い形態をとっていました。

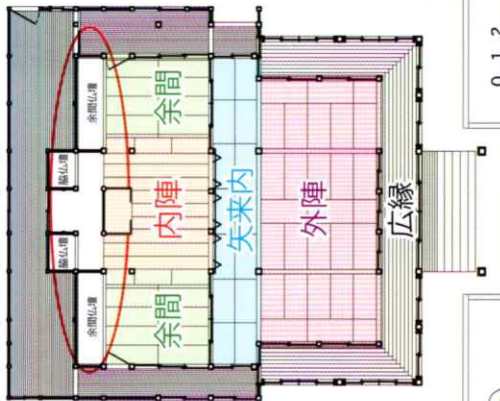


本堂



建立時は一直線に並んでいましたが、改築後に須弥壇が前方に、脇仏壇が後方に下がっています。

建立時本堂平面図



改築後本堂平面図



内陣



山門

構造様式：入母屋造、棧瓦葺、平入

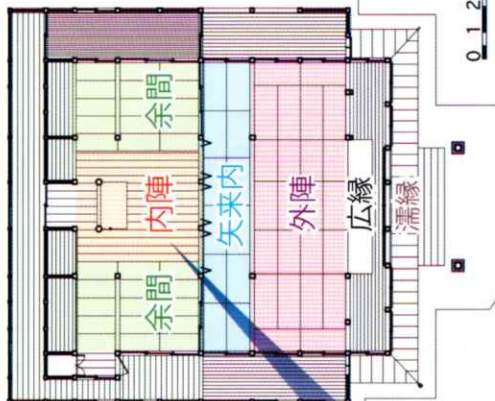
憶念寺（古井町）

憶念寺は山号を大恩山といい、真宗大谷派の寺院です。初め豊日林櫻井寺と号し第九世知祐の代に天台宗となつたといわれています。第三十四世圓空が天福元年（1233）に親鸞の弟子となり真宗に改宗し、憶念寺と改称したと伝えられています。

本堂の建立年代については定かではありませんが、内陣廻りの部材から江戸時代中期頃（17世紀後半・元禄年間（1688～1703））に建立されたとみられます。また、江戸時代後期（18世紀後半頃）の様式を表す部材も多く使用されていることから、この頃に大きな改造が加えられたようです。この本堂は、真宗本堂の初期にみられる一直線仏壇を採用しており、市内では本證寺本堂（寛文3年（1663）頃）に次いで古い真宗本堂です。



内陣



本堂平面図



本堂

構造様式：入母屋造、棧瓦葺、平入

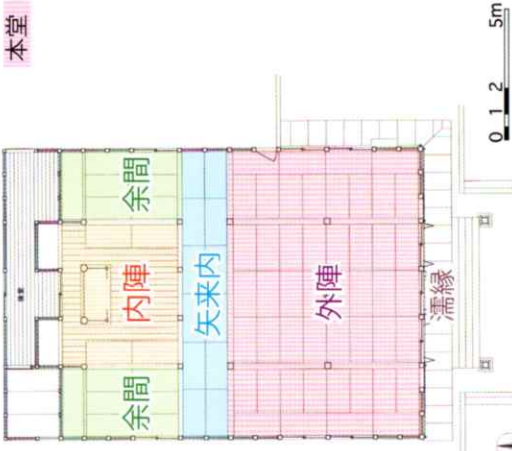
西蓮寺（東端町）

構造様式：入母屋造、棧瓦葺、妻入

西蓮寺は山号を西光明山といい、真宗高田派の寺院です。天明元年（1781）第二十世自勝の代に八間四面の大型本堂を10年がかりで再建しましたが、昭和20年（1945）の三河地震で倒壊してしまいました。この本堂については、安永8年（1779）の御堂図面などの資料が、牛久保（現豊川市）の宮大工岡田家に残るため、7代目岡田五左衛門の作である可能性が高いです。現在の本堂は、昭和25年（1950）に旧本堂の部材も使いながら再建されたものです。入母屋造、棧瓦葺き、妻入で、斗拱や虹梁、派手な彫刻もほとんどなく、本格的な伽藍復興に先立ち、仮本堂として再建されたことを窺わせます。境内には天保10年（1839）建立とされる山門と、都築弥厚の自邸にあったものを移築した茶室が残されています。



本堂



本堂平面図



都築弥厚茶室（非公開）



茶室・座敷内部



山門前

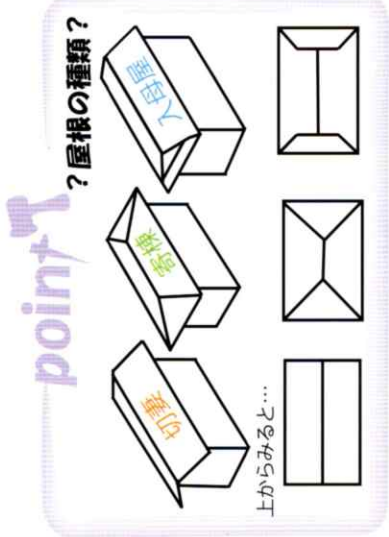
構造様式：入母屋造、棧瓦葺、妻入

本龍寺（和泉町）

本龍寺は山号を泉流山といい、真宗大谷派の寺院です。慶長11年（1606）に二休が道場主になると、六間四面の本堂を新築したと伝わります。本堂は明治35年（1902）に火災により焼失し、その後九間四面の巨大な本堂が再建されましたが、これも昭和20年（1945）の三河地震で倒壊してしまいました。現在の本堂は、昭和23年（1948）に再建されました。西蓮寺と同じく、入母屋造、棧瓦葺き、妻入の本堂で、仮本堂として再建された中型の本堂です。旧本堂の部材が多く再利用されており、各所に巨堂であった頃の名残が見られます。

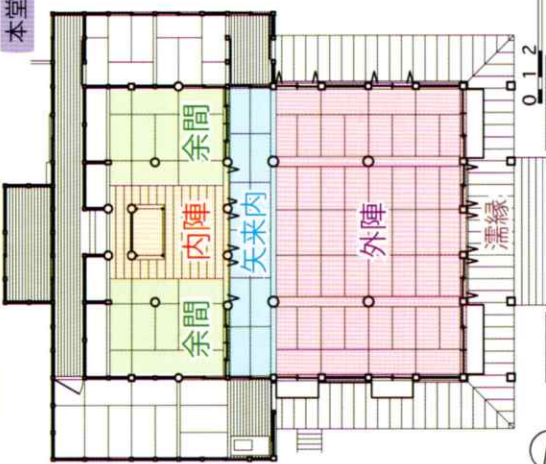


旧本堂虹梁

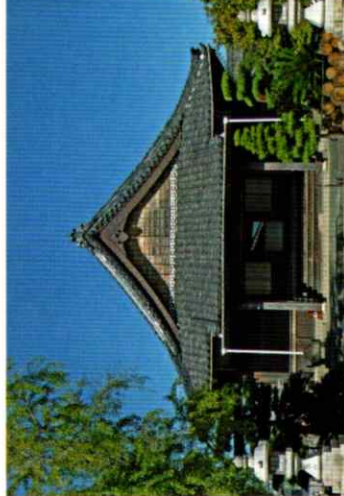


? 屋根の種類?

上からみると...



本堂平面図



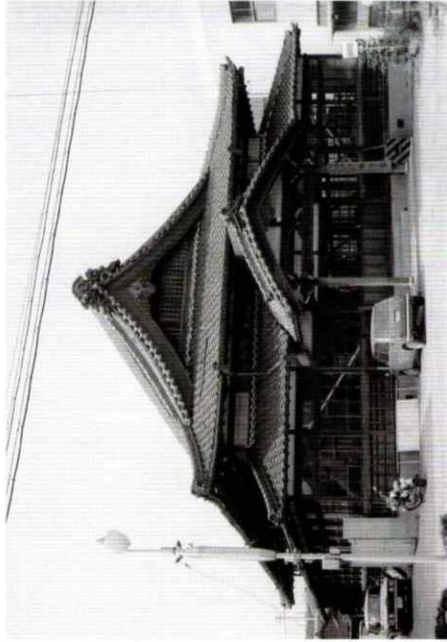
本堂

城泉寺(城ヶ入町)

構造様式：入母屋造、棧瓦葺、妻入

城泉寺は、山号を開光山といい、寺伝によると、貞享2年（1685）の創建と伝わります。現在の本堂は、昭和5年（1930）に安城警察武道館として建設された建物で、警察署の武道場としてだけでなく、市民の柔剣道の練習の場として広く利用されてきた「武徳殿」と呼ばれる建物です。

昭和51年（1976）当地に移築復元され、本堂兼地区公民館とされています。



旧安城警察武道場移築前



倒壊前の旧本堂

point ↑ ? 武道場？本堂？

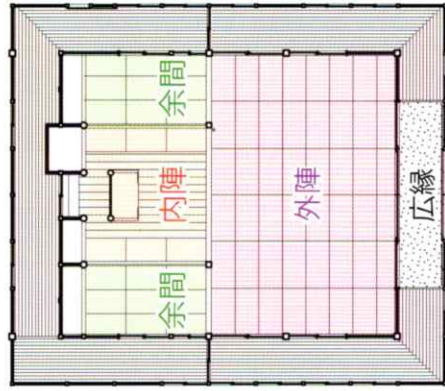
平面図をみると内部には、本来の真宗本堂の型式（前ページのような本堂）と比べて明らかに異なる点がいくつかあります。

- ① 矢来内がない
- ② 柱の数が少ない
- ③ 柱の間が広い
- ④ 斗拱がない

など武道場の頃の姿をみることができます。

? 矢来内？

僧侶と門徒とを区画する空間を矢来内といいます。前ページにでてくるように、外陣と内陣の間にあります。



本堂平面図

0 1 2 5m



本堂

旧本堂は文化6年（1809）に建立され、昭和20年（1945）の三河地震で倒壊しました。檀家の人たちはその再建を悲願とし、武徳殿を城泉寺に移築しました。旧本堂の部材は装飾材として現在の本堂の一部に再利用されており、江戸後期の真宗本堂の様式もみることができます。昭和初期の近代和風建築であり、武道場建築としても貴重です。



旧本堂部材

本堂には、旧本堂の虹梁が飾られています。

篠目八幡宮(篠目町)

構造様式
本殿：一間社流造、檜皮葺
覆殿：入母屋造、棧瓦葺
拝殿：切妻造、平入

平成23年10月、拝殿建替え工事に伴い、緊急調査を行いました。同時に本殿・覆殿も調査を行いました。

拝殿は、棟札と瓦銘によって天保15年（1844）の建立であることが明らかとなり、棟梁は榎本清兵衛昭友という知多郡横松村（現阿久比町）の大工ということが分かります。

覆殿は、棟札によって明治12年（1879）の建立であることや、造立に携わった大工棟梁は、篠目村の野村伊助・善六・仙吉で、大工後見は、知多郡横松村の関太吉であることがわかります。覆殿内部には、小型の本堂を安置し、拝殿脇には棟門も設けられ、これらの建物も細部まで入念に造られています。

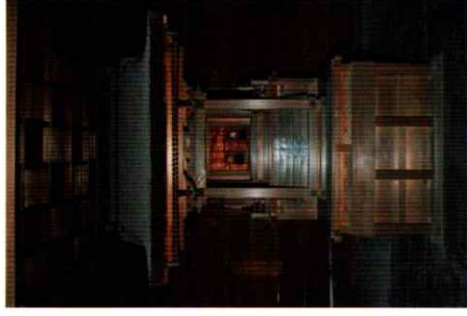
本殿は、棟札により、明治42年（1909）に建立され、大工棟梁は増田為三郎・野村伊助・幾次郎であることが確認できます。市内の寺院には知多の宮大工名が18世紀までのものに多くみられますが、19世紀になると次第に地元の大工名が多くみられるようになり、社寺建築の造営に関わる大工にも変化が見られます。



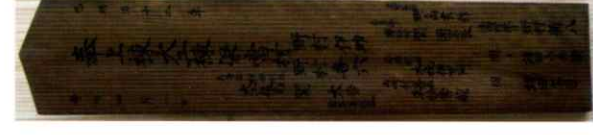
拝殿



本殿



拝殿 棟札



覆殿棟札



覆殿

point ↑ ? 榎本清兵衛？

榎本清兵衛が生まれた知多郡横松村（現阿久比町）は近世以降、優れた堂宮大工を輩出した地として知られています。八幡宮拝殿には「榎本清兵衛昭友」の名がありますが、文政3年（1820）に建てられた篠目町の明専寺本堂には「榎本清兵衛忠道」の名があります。2人は一族の可能性が高く、当地において連続して寺社の造営に関わったようです。

point ↑ ? 榎本清兵衛？